

合併協議受け入れられず

成田市から1市4町へ断りの回答

成田空港圏での合併を目指して「富里市・栄町・神崎町・多古町・芝山町」の1市4町は8月5日、成田市に対して合併協議の申し入れを行いました。

これを受けて9月29日、成田市から今回の申し入れに対する回答がありました。その内容は、成田市は平成18年3月に旧下総町および旧大栄町と合併して間もないことなどから、新たな合併に取り組むよりも、新市のまちづくりや当面の諸課題に全力を傾けたいというもので、残念ながら合併協議の申し入れは受け入れられませんでした。回答書の全文は下記・左のとおりです。

1市4町では、この回答を受けて10月14日に首長懇談会を開催し、平成22年3月末を目途とした合併は断念せざるを得ないこと、懇談会を一時休止すること、下記・右のとおり懇談会の総意を示すことについて合意しました。

平成20年9月29日

富里市長 相川 堅治 様
栄町長 川崎 吉則 様
神崎町長 石橋 輝一 様
多古町長 菅澤 英毅 様
芝山町長 相川 勝重 様

成田市長 小泉 一成

合併協議申し入れに関する回答について

仲秋の候、貴職におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、貴職より平成20年8月5日に提出されました、合併協議申し入れに関しまして、本市の基本的な考え方を回答させていただきます。

ご案内のとおり本市は、平成18年3月に旧下総町および旧大栄町と合併し、現在、新市のまちづくりに全力を傾けて努力しているところでございます。新市のまちづくりにつきましては、市域の拡大から生じる道路や農道など基盤施設における地域格差の是正に取り組み、また成田新高速鉄道アクセス事業などの大規模事業にも対応していかなければならない時期となっております。更には、合併に伴う財政優遇措置には期限があることから、この特例期間の中で、人員削減などの行政改革と財源確保を図り、新市の一体化と大規模事業を推進していかなければならないと考えております。

また、成田空港を活かした地域づくりでは、現在、空港周辺9市町で構成する成田国際空港都市づくり推進会議において、地域で空港を支え育て空港があるメリットを実感できるまちづくりの推進を目指し、成田国際空港都市づくり9市町プランを策定しております。今後、空港間競争の激化も予想されるため、プラン策定後、速やかに空港周辺市町が協力連携し合い、成田国際空港都市づくりを実行に移していくことが肝要であると考えております。

このようなことから、本市といたしましては、新たな合併に取り組むよりも、当面の諸課題に全力を傾けてまいりたいと考えておりますので、ご理解を願いたいと存じます。

富里市・栄町・神崎町・多古町・芝山町
首長懇談会とりまとめ

本懇談会では、地方分権の進展や成田国際空港を取り巻く社会・経済環境が大きく変化する中においては、空港を中心とした市町が一体となり千葉県経済発展の先導役のみならず、日本の国際競争力を担う国際空港都市として発展していくことが更に求められることとなり、今後もこの地域における市町村合併への検討の必要性は変わることのないものと認識している。

平成22年春には、平行滑走路が2,500mとして供用開始され、また成田新高速鉄道の完成が予定されているが、更なる空港機能の拡充が必要とされ、それを実現するためには、空港と地域の共栄が不可欠であると考えます。

国際空港都市を実現し、成田国際空港が日本を代表する国際空港として更なる発展を遂げるためには、成田市に中心的な役割を担っていただくことが必要であるとの認識のもと、我々は今後も空港周辺自治体の合併協議については、合併特例法の期限に捉われず、門戸を開き対応する。

以上の内容について、本懇談会の総意としてここに確認する。

平成20年10月14日

富里市長 相川 堅治 様
栄町長 川崎 吉則 様
神崎町長 石橋 輝一 様
多古町長 菅澤 英毅 様
芝山町長 相川 勝重 様



満百歳

おめでとうございます



與風吉野さん（最前列中央）
「数年前までゲートボールをしていました」



櫻田ふじさん（前列中央）
「長生きの秘けつは好き嫌いなく食べることです」



鈴木ますさん（最前列中央）
「家族のみんなに心から感謝しています」



平山徳治さん（前列中央）
「家庭菜園で汗をかくことが楽しみでした」

9月24日、今年度で満百歳を迎えられる櫻田ふじさん（川島・花立第一）、與風吉野さん（栗田）、平山徳治さん（大原内）、鈴木ますさん（十倉三）の4人に内閣総理大臣から祝状と銀杯、町から花束などが贈られました。贈呈に訪れた香取健康福祉センター長や町長らを笑顔で出迎えてくれた皆さん、これからもどうぞ元氣にお過ごしください。

生涯現役で地域医療に貢献

「朝は4時半に起きてお風呂に入り体操。7時半には箱崎整形外科医院へ行き、お昼まで働いています。整形の痛みは体の痛み半分、心の痛み半分。患者さんの心の痛みを少しでも和らげられるよう日々努めています。働くということは、自分にとって生活の一部。体が続く限り、生涯現役という気持ちでいます」



前田てるさん
(88歳／神行)

生きる源は読み書きと良き友

「毎朝5時半に起床。テレビ体操と朝の散歩が日課です。読み書きは幼いころから好きでしたが、後に前頭葉の錬磨に良いと知りこだわるように。出版した本も三冊になりますが、書いたものを公表し、認識されることでアドレナリンが出て長生きできるのだと思います。また、良き友の存在が私の大いなる財産です」



伊藤信光さん
(84歳／田町)

人生いきいき

現役で活躍する方々にインタビューしました